



Comfort Hearing みみより News

No.007
09.4.22

ご挨拶

ガソリン価格もほぼ安定し、離退職や内定取消騒動も一段落したようです。地方の景気はジワジワと下降しており、倒産や経営陣総退職での生き残りの話題が盛んです。



岡山県真庭市の醍醐桜です。ソメイヨシノと違い小さく可憐な花で有名です。

補聴器工業会からの2009年1月～3月の出荷台数を見て、複雑な心境になった。

①ポケット型が前年比4,129台、50%近くの増加、②耳かけ型も4,743台増で10%UP、③デジタル耳あな型が5,267台減の11%減少した。④台数・金額は共に1.1～1.2%のUP。久しぶりの快挙としてポケット型が増えた。企業努力も大きいと推察されるが、販売技能、フィッティング技術の未熟さに対するユーザーの正常な反応と考える。高価であっても不満の多い販売現状、通販(15万台程度?)よりはマシ!と購入される。何よりボリュームが付いて自分で調整できる、自分流フィッティングが快適であるから。その証明はデジタル耳あな型が11%のマイナスでされていよう。

前号でも指摘したが、当たり前と考えられる聞こえの改善に何ヶ月も、何回も再調整しなければならない不便さ、それにも増して納得いかない「きこえ」では、オーダー離れも当然だろう。

みみより NEWS 第7号をお届け致します。

今後とも皆様方のご指導ご鞭撻をお願い申し上げます。

中国補聴器センター 代表取締役 福元儀智
尚、御意見・御指摘 E-mailでお寄せ下さいますようお願いいたします。

トピックス

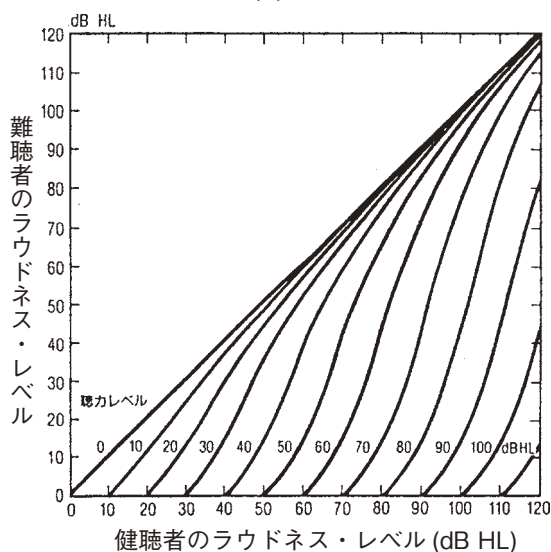
- 【Ⅰ】 前号での疑問
- 【Ⅱ】 補聴器プライス・スペクトル
- 【Ⅲ】 ユーザーからの声 その2

※みみより NEWS のバックナンバーは当社ホームページでご覧いただけます。

URL <http://www.chc-ha.co.jp> E-mail fukumoto-y@chc-ha.co.jp

【I】 前号での疑問

図 4



健聴者と感音性難聴者の
ラウドネス・レベルの比較

前号のデジタル・ノンリニアの誤謬で示した図4に大いに疑問が生じた。この図の解説ができるか？

誤り1：X-Y軸が全く反対である。健聴Y軸の音圧とイコール・バランスの難聴音圧がX軸である。X軸:70dBが閾値ならY軸健聴0dBである。

誤り2：○○者ではなく○○耳である。異なる被検者間でのバランス・テストができる訳がない。(本NEWS、100以上配布したが、どこからも疑問がなかった。今さらむし返したって…の思いでしょうか。)

現在デジタル処理のニーポイントが小さく、圧縮率が高いのは、この理論から導き出された「ラウドネスに対するノンリニアな補償」、別名正常化理論です。この理論は実際に不具合で修正・補完するためにエキスパンションがあります。(前号IV④参照ください。)

【II】 補聴器プライス・スペクトル

先日ある医療機関の方から指摘を受けた。先生は「補聴器は10万円程度だよ」と患者さんに言われていたのに、店に行ったら20万円のをすすめられた。2倍、10万円の差がありビックリした!と。私達どっぷり業界に浸っていると気がつかない事でした。工業会会員メーカーの価格を「プライス・スペクトル」にまとめた。国内で販売されている通販ではない補聴器価格がはっきりした。そして、今度は私自身がとまどった。オーダーメイドでは10万円から50万円に近いものがある!(5倍)。耳かけは5万程度からやはり50万円に近いものがある(10倍)。この差は何でしょう?各メーカー11社(お問い合わせ窓口)に聞いた。()内数字は回答社数。

安い理由

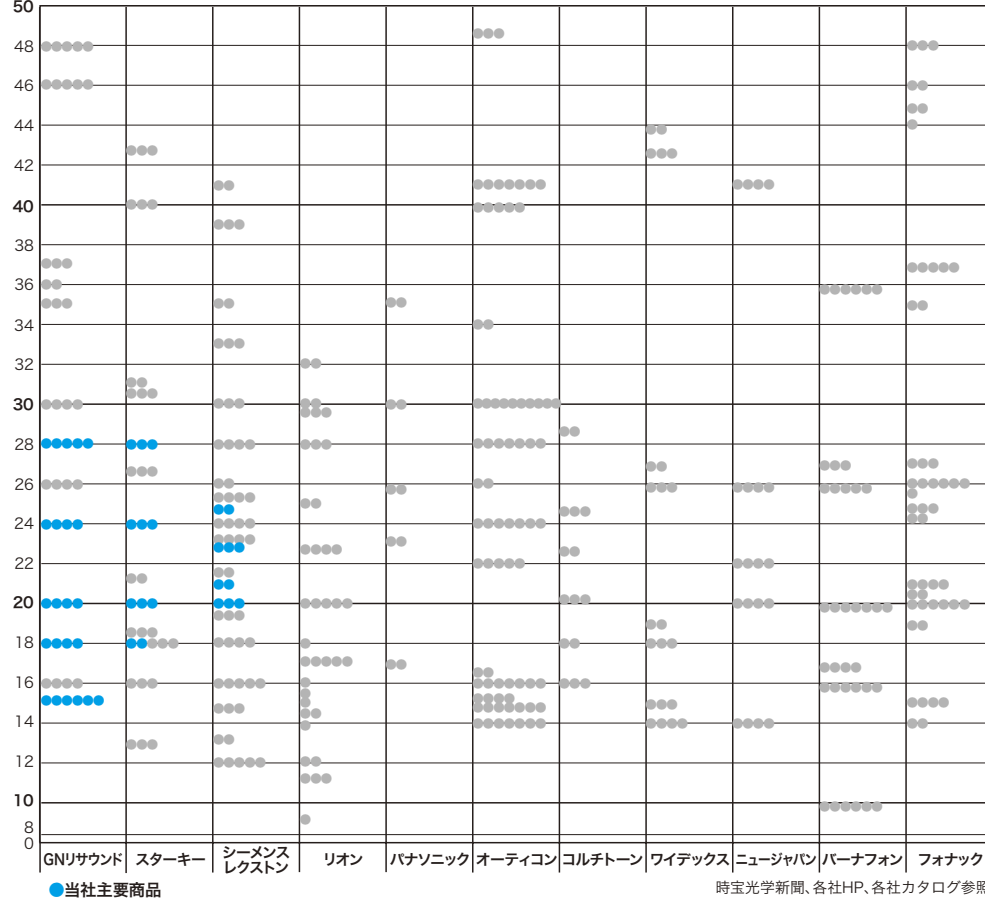
- アナログ・アンプ (3)
- 音を大きくするのみ (1)

高い理由

- 機能が沢山(ノイズリダクション・指向性・ハウリングキャンセラー) (5)
- 雑音抑制(周りの音を静かに) (8)
- 調整幅・バンド・チャンネル (4)
- 聴力レベルが高いとパワー機能が必要 (2)
- デジタル (1)
- メモリー (1)
- 自動的機能 (1)
- 高音が聞こえる変換 (1)
- 小さいcic (1)

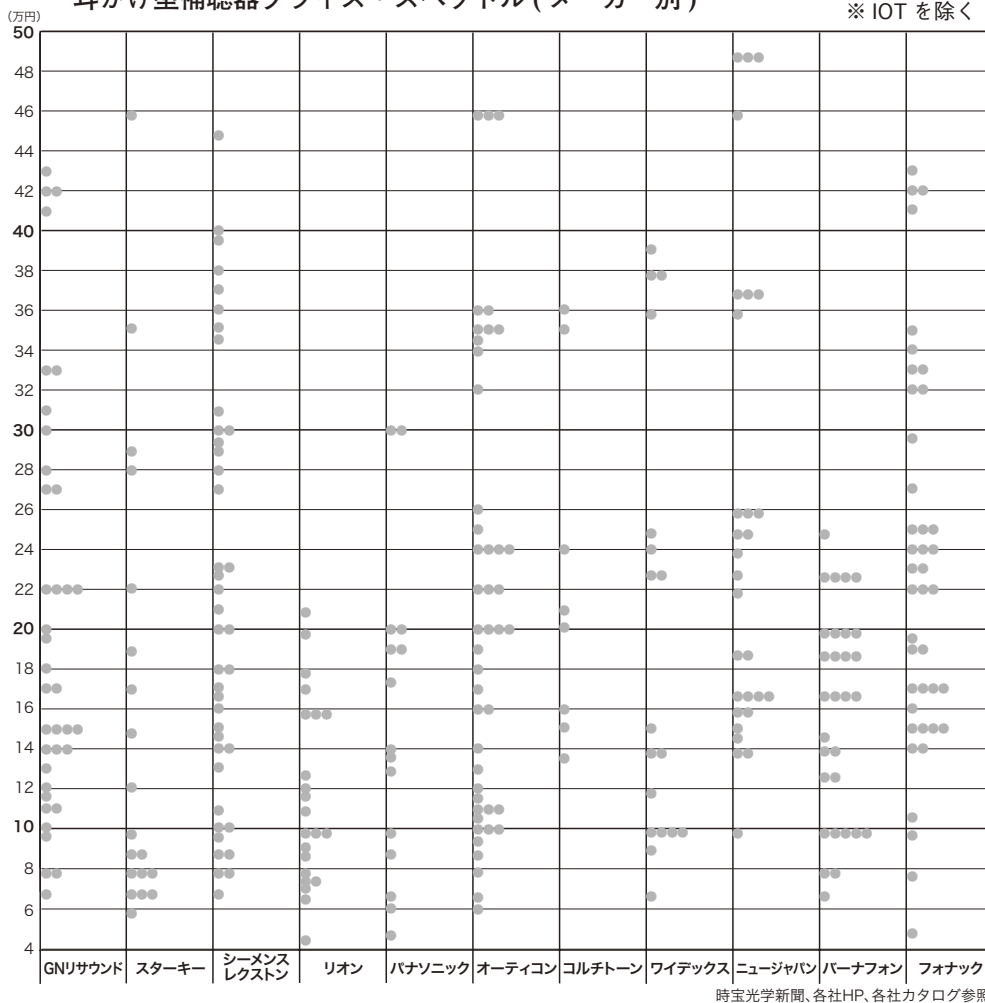
一般常識では、高価なものほどメリットが多いと思われる。補聴器では5倍も10倍もすれば、絶対に最高のものが購入できると思う。しかもものぼりが立ち、カタログがあり、自宅まで来て測定してくれ、現代の魔術機コンピュータでやってくれる、信じない方はおりません。当社では接続コード、ソフト習熟等物理的限界があるため3社に限定し、主要商品を図のように選定しています。

オーダー補聴器 プライス・スペクトル (メーカー別)



耳かけ型補聴器 プライス・スペクトル (メーカー別)

※ IOT を除く



(考察) ユーザーは納得しているか？

補聴器に内蔵している性能・機能によって価格が5倍～10倍になる、との回答であるが、ユーザーに明確な説明と納得がされているだろうか。常々述べているが、内蔵機能はそれぞれのユーザーに真に必要なものであるかを見極め、かつそれを有効にマッチングさせる技能が伴って実現されるものである。一般的なユーザーはカタログに表記されていれば、当然実現されると判断する。現状の聴力を入力しパソコン自動調整では、できる可能性はない。できないから何度も何度も再調整し、あげくにはオキマリ禁句の「慣れて・限界・いろいろ」で諦めさせている。これはデジタルが出現していまだに続いている。やっぱりダメか！でも通販ポケット型なら自分で好みの音が作れる、とユーザーは判断している。此頃、筆者は通販の肯定派になりつつある。

【Ⅲ】 ユーザーからの声 その2

中国補聴器センター 福元社長との出会い

中国補聴器センター福元社長との出会い、関わりは、東京都心身障害者福祉センターに長い間勤務されその折に補聴器相談でお世話になり、現在は大阪河崎リハビリテーション大学で教授をしておられる三輪レイ子先生からのご紹介でした。中国補聴器センターでの調整は、聴力検査の段階から他会社やメーカーのものとは異なり、小さい → 少し小さい → ちょうどよい → 少しうるさい → うるさい とその度合いを調べ、1回で健常者までの音量にあげ、ほどよく調整するもので、響いて聞きとりにくい、ある音域が聞きとりにくい、という不快がまるでなく、フィッティング調整は、1回だけで本当にその個人にピッタリとしたものが出来上がり、本当に快適な音を聴くことが可能になりました。

この手法には正に初めてで脱帽でした。それまでは、東京都心身障害者福祉センターで紹介を受けた補聴器会社の補聴器を購入し、メーカーに微調整を何度も何度も繰返し実施してもらい、補聴器を利用する側が慣れるまでかなりの時間と労力を費やすことが強いられました。利用者の希望をメーカーはそのまま受入れ、果たしてそのフィッティングが利用者にとってよいものかもわからず使用していました。

難聴者にとって、補聴器の選定、購入は、食品や衣料品と異なり、いろいろな補聴器から決める、比較をするということが難しいのがネックです。一度購入したものは、4～5年使用することとなり、又他社との比較が困難なために、これは本当に自分が紹介された、又は見つけた、出会った会社、メーカーのものを使用することとなり、比較ができないがために、そこのメーカーのものが一番よいと思って使用するしか他なりません。

よいフィッティングをしてくれる中国補聴器センターは、利用者側、特に不特定多数の人と接する社会人や学生には、大きな助っ人となってくれることでしょう。私自身も福元社長と出会えたことによって、人生が大きく変わりました。今までは、トライすることを躊躇ちゆうちよしておりました、車の免許やイタリア語等を始めてみようかと思っております。これからの自分の人生がより幅広く豊になり、世界が広がりそうな気がしてワクワクしております。出会いに心から感謝申し上げます。

鳥海 紀恵子

(株)中国補聴器センター

URL <http://www.chc-ha.co.jp>
E-mail fukumoto-y@chc-ha.co.jp